

国立研究開発法人土木研究所の令和元事業年度評価結果の主要な反映状況

1. 役員人事への反映について

役員人事への反映	中長期目標に定められた業務について、中長期計画に沿った年度計画が順調に達成され、国土交通大臣による令和元年度の総合評価が「A」評価であったこと等を踏まえ、役員解任等は行わなかった。
----------	--

2. 法人の運営、予算への反映について

評価項目	令和元事業年度評価における主な指摘事項	令和2年度及び3年度の運営、予算への反映状況
研究開発成果の最大化その他業務の質の向上に関する事項	<p>○ 無人化施工機械に対する HMD+VR システムの実装は、ポスト・コロナ時代に有用なものであると考えられ、こうした研究開発をさらに展開されるよう期待する。</p> <p>○ 若い人材にモデルキャリアパスの提示を検討してはどうか。</p>	<p>(1) 建設機械の運転席に座っているような VR 技術、操縦している建設機械を真上から見下ろした俯瞰映像（アラウンドビュー）の導入など、先端技術の現場実装に向けた検証により、搭乗時の施工と比べて施工効率がこれまでの約45%から約60～70%まで向上することを確認。</p> <p>(2) これまでの研究成果をとりまとめ「無人化施工化マニュアル」を作成するとともに、各地方整備局などに提示し、全国への普及を予定。</p> <p>(1) 次の研究の柱となる新しい研究課題に取り組む若手職員に上席研究員を任命する計画をスタートしている。</p> <p>(2) 経験者採用者のキャリア（上級研究者職）を検討中。</p> <p>(3) 独自採用者による行政機関との連携を強固にするため、人事交流についても議論を開始している。</p>